

パシカル カント

人と野生生物の関わりを考える会 Vol.3

～人と野生生物がともに
健康にくらせる街づくり～



2012年 2月発行

“パシカル” はアイヌ語で「カラス」

“カント” は「空・天空」という意味です。

空を見上げたとき、カラスが飛んでいる…

そんな普通なことが幸せなのです。



人と野生生物の関わりを考える会

～野生動物にエサをあげたことがありますか

エサをもらった動物のその後のくらしを考えたことがありますか～



私たちは、人と野生生物がともに
健康にくらすためにどうすればよいのか
考える市民グループをつくりました
(平成20年6月)



ロゴイラスト 白木 雪乃(人と野生生物の関わりを考える会・旭川市旭山動物園)

- ◇基本趣旨 旭川を流れる永山新川における、カモ・ハクチョウ類への餌やりや、スズメの大量死を一つのテーマに人と野生動物の関わりについて考え、行動する市民組織。
- ◇目的 身近な自然を心から愛し、人と野生動物のお互いが快適で幸せな自然環境と人間社会を創る。
- ◇構成 旭川市民/野鳥の会旭川支部/自然保護団体/行政(旭川河川事務所、上川総合振興局)/旭川市/旭川市/旭川市旭山動物園
- ◇会員 小学生から大人まで100名
- ◇活動
 - *自然観察会
 - *餌やりが引き起こしうる問題点、高病原性鳥インフルエンザなどの感染症についての勉強会
 - *餌やりや餌台のマナーについてのチラシ配布
 - *小学校への出張授業(餌やり問題、外来種)
 - *楽しく学ぼう! 野生生物ーパネルシアターを用いての訪問活動
 - *小学生を対象に旭山公園・旭山動物園にて野外での総合学習会
 - *外来種アズマヒキガエルを捕まえて学ぶ会
 - *永山新川にて清掃活動、水生生物による水質調査
 - *会報誌“パシフルカント”の発行
 - *環境フォーラムの開催

キーワード **野生生物への関心と距離感**

～人と野生生物がともに健康にくらせるまちづくり～

平成23年度 旭川市の協働街づくり事業として

旭川市旭山動物園と連携して活動をおこなっています。

みなさまのご参加を心よりお待ちしております

原田 E-mail/wakka2011@yahoo.co.jp

TEL/090-3893-4877

野鳥観察・学習フェンス **生き物思いやり線**



北海道旭川市永山地区・永山新川では、ハクチョウやカモなどの野鳥に対する餌やりが行われてきました。餌やりに伴い、残り餌や一か所に集まった野鳥の糞が河川を汚染し、またゴミの不法投棄が周囲の自然環境に悪影響を及ぼしています。さらには、野鳥から、高病原性鳥インフルエンザなどの感染症が起きやすい状況にあり、野鳥や周辺の養鶏場への影響が懸念されています。



「人と野生生物の関わりを考える会」では、これまでに自然観察会や勉強会を重ね、野生動物への餌やりが引き起こしうる環境問題・社会問題について考えてきました。その結果、日本財団の助成金を得て、旭川河川事務所にも協力をいただき、2010年12月に永山新川に野鳥観察・学習フェンス『生き物思いやり線』を設置することができました。

* 学習パネル作成 *

フェンスには、小学生から大人までの市民手作りの学習パネルが貼られており、野鳥の生態・人との関わりについての学ぶことができます、学習空間となっています。



* 自然観察会を開催 *

野生動物の自然界での役割や餌やりが自然環境や人間社会に与える影響を知り、人が健康に暮らしつづけるためには、何が大切なのかを一緒に考えています。

・目指すゴールは…



～人が野生生物を気づかい 離れて そっと見守る～

という自然認識を育てる普及の場ともなっており、それが達成されたとき、フェンスは役割を終え、撤去する予定です。物理的な壁として餌やりが出来ないようにすることではなく“心理的な境界線”として、餌やりを辛抱する気持ちを育むことが目的です。



人と野生生物の関わりを考える会



活動報告 パネルシアター 訪問活動



2011年7月～2012年2月までの間、市内幼稚園・保育所・留守家庭児童会8ヶ所、旭川生涯学習フェア「まなびピアあさひかわ」講演会にてパネルシアターを行いました。第1弾は「カラス」を素材として、その生態や人との関わりについて、旭川市旭山動物園監修のもと、パネルを中心に演劇・音楽・手遊びにのせてお話をしています。



「カーカー」「ギョ〜ギョ〜」
ぼくたちのおなまえ
わかるかな??

いつもおそとで
みているぼくの
こと、みんなは
どのくらい知っ
ているかな?



“ゴミを背負らかしちやったのはだれかな?”
本当にカラスさんが
悪いのかな……



〜クイズ〜
からだの色は
何色でしょう?
よくみてみてね♪

子どもたち1人ひとりに木を植える
お手伝いをしてもらいました。すると…
1本だけだった木が、カラスさんの
住み心地のよい木に♡



2011年8月5日～北海道新聞

旭山動物園だより

パネルシアター



幼稚園児たちとカラスとの関わりを考えたパネルシアター

子供たちに身近な自わりを考える会（自然や野生生物への関心・える会）が企画。趣旨を高めてもらおうと、旭山動物園も「人間と「パネルシアター」と旭山動物園も「人間と自然の共存を考える良幼児、児童向けのユニークな出前講座が今夏から始まった。市民団 7月20日、道教大付旭川幼稚園の園児向



獣医師さんに動物のことをきいてみよう!



「カラスのおはなしおもしろくないね」

～カラスさんから心を込めてプレゼント～

第2弾! 告知

平成24年度 パネルシアター
第2弾は「アライグマ」のお話を予定しています。

施設・教育機関だけではなくより多くの方々にきいていただく機会を設けていきたいと考えています。(もちろんカラスのお話も)

どうぞお楽しみに♪
ヤエライケレ



自然との関わり 考える機会に

「ある朝、カラスがごみ捨て場でごみを食べまわらされて、他の野生動物にも広がられ散らかしていると、住民が「町を汚しやがって」と怒る。寸劇を見ていた子供たち、メンパーがこう問えた。問い合わせは旭山動物園云01166・36・1104へ。」
その上で、ごみ捨て場にカラスよけの網をかけることで防げることや、本来カラスは虫を食へ森や町を掃除する存在であることなどを紹介。幼児からは「カラスがよく分かった」と反応は上々だった。人と自然のあつれき

けに開かれた1回目のという「見難しいテーマのパネルシアター。身近だが、事務局局長を務める旭山動物園の福井カラスがテーマだ。舞大祐獣医師は「自然の台中央に置かれた白いパネル上で絵人形を貼る理解してくれたのでり付けたら動かしは、と手応えを感じる。発表者で考える会の池野由似さんと原田幸枝さんも「スヌメやアライクマなど、他の野生動物にも広がられ散らかしていると、住民が「町を汚しやがって」と話した。考える会では、この寸劇 パネルシアターを今後月1回程度開きたいと考えていた。問い合わせは旭山動物園云01166・36・1104へ。」

すけゆめ
旭川の鳴き虫展
6/21日、資料展
☆ぬりえ展 31日
まで、学習ホール
☆夜の動物園(開園時間を午後9時まで延長) 12/16日



野外総合学習会



2011年8月23日、北海道旭川市立東光小学校4年生の生徒さん102名を、旭山公園での自然観察会と旭山動物園内での身近な野生動物の生態や関わりについて学習する野外総合学習会に招き、開催しました。

← 学習会で配布した教材 ~

空欄の図鑑に、観察した生物や自分の好きな生物のことをかきこめるようになっていて、**世界でたったひとつの自分だけのミニ図鑑**をつくることができます。オリジナルワークシートもついています。



オオハシゴソウ(特定外来生物)



五感をつかって...

かんしてみよう



旭川にすんでいることも →
「私には矢印してほしい!」
アズマヒキガエル(外来種)

外来種の問題
について

生物多様性



カラスは森の健康を
守っています...
森の健康は私たちの
健康へとつながっています



生物はそれぞれの個性で
命をつないでいます。

旭山動物園内

エゾフクロウ前にて



「知っているようで」
本当のことは矢印らない!!
身近な野生動物の魅力をたっぷり
食育展示係の方よりお話をふききました



「へびって又いとしていない!」



食物連鎖について →
「命はつながっている」



ミニ図鑑監作中
本物を観察しながら

3種のカエルを真近で観察

日常生活の中で今回のような体験は難しい現代社会です。しかし、感じ学び得た経験は一生ものです。どうか今回の経験を大切に、そして子どもたちに自然を愛する心が育まれていくことと信じています。また、この学習会が教育機関の総合学習のモデルとなっていくことを期待しています。 **サエライクレ**

活動報告

永山新川にて～水生生物による水質調査・自然観察会・清掃活動・学習会
 日時・・・H23年9月17日(土) 10:00～16:00
 場所・・・川のふるさと交流館さらら、新山新川フェンス「生き物思いやり泉」周辺
 参加人数 40名 共催・・・旭川河川事務所

悪天候のなか水質調査の実施がごきずのかどうか心配しましたが、雨も止まりました。旭川河川事務所の協力を得て参加者全員救命胴衣を装着して調査の開始～川の流水の調査を行いました。川の水の色匂い水温、パックテストにて水質の調査を行いました。川にはドジョウ、カムシトミヨウグイなどの生物がみられました。当日は初体験となりました。水質調査に参加者からも「川について関心ももら美しい川だ」とあるためには「川を知らないことでは」という声が上がっていました。次回も参加をしたいという人が多くいらっしゃいました。午後～河川敷のゴミを拾いながら、外来種であるセイウオオマルハバキヤ、外来植物のヒロドエズクなどを発見し、自然観察会を行いました。その後さららにて人と野生生物の関わりや環境についての学習会が行われ、市民の皆さんと共に「7まじも人と野生生物も地球環境も健康であるためには何かスチカチのか考える機会」にしました。身近な環境を知り、その恵みを大切にしたいと感じました。



永山新川にて～自然観察会・勉強会・学習ハロネリ作成
 日時・・・H23年10月9日(日) 10:00～16:00
 場所・・・川のふるさと交流館さらら、新山新川フェンス「生き物思いやり泉」周辺
 参加人数 45名 協力・・・旭川河川事務所

さららにて「7まじも」カモ類の生態や高病原性鳥インフルエンザなどの感染症について、学習した後に野生生物の観察をフェンス「生き物思いやり泉」にて行いました。午後～学習した内容などをまとめ「ハロネリ」の作成をしました。文字を書く人、絵を書く人など、皆さん手づくり良く作業をされていました。作成した「ハロネリ」はフェンス「生き物思いやり泉」に設置しました。この「ハロネリ」を通して身近な野生生物のよばらさを知り、自然を愛する心が育まれていくことを願っています。



ふく鼻ろう

九日川市九日山動物園

フクロウ・カバ担当・獣医師

佐藤 伸高 さんにおききました!



絵・佐藤伸高さん

動物園の動物は動かないとつまらない?!

「なんだ、うごかないね。」「ねてる…おきてよー。」と
みることを楽しみにしてきた動物たちが眠っていたり、じっと
していて、残念な気持ちになったことはありませんか?
しかし、その動物たちを前に1度気持ちをおき、考えてみましょうっ
—どうして、この動物は動かないのかな—



「フクロウは夜行性なので日中動くことは少ないです。
動かないことも1つの行動です。日中はこう行動するんだ!
とみてもらえれば良いなと思いますね。」

フクロウと他の動物・植物との関係

まずは、(どこでくらしているのか)をエゾフクロウで考えてみます。
何を食べているのか。

→ 人里離れた森・山奥というイメージが強いですが、実は私たちの
身近な森(九日山動物園隣り九日山公園など)にもすんでいます。
また、エゾフクロウの営巣には、樹洞のある大きな樹木が必要です。
(ミズナラなどの広葉樹)

→ 主に、ネズミ・ウサギ・小鳥・昆虫など。



「**ココ!!**」上記の動物たちは何を食べて生きているのでしょうか?
「ミミズ・シジリ、きのこ、植物などです。こうして考えてい
くとフクロウはたくさんの動物植物と関わり、生きている
という命のつながりに気づくことができます。」



「フクロウだけではなく、他の動物で考えてみても、その動物だけ
では生きてはいけません(人間も)。自然ではどのような生き物との
関わりがあるか…考えてみると重要な関係を知ることができますよ。」

「『ヒトは自然あってこそ人間』その動物の行動の理由やヒトとの
関係性を知っていくと、動物たち、自然にやさしくなれます。」

～「動物・自然へのやさしい気持ち」
佐藤さんのあたたかな心であふれるインタビューでした。

ボクはかくれんぼ名人!! コノハズク(木葉木莩)

コノハズクは、フクロウの中で一番小さい種類。
日中は文字通り、体を細くして、木の葉のようにして隠れています。
コノハズクの展示を、自分の目でみて、探し、見つけることができた
時の感動はひとしおです。このページ内にも8羽のコノハズクが
隠れていますよ。もういいか～い??



人と野生生物のお互いが快適な自然環境を目指す市民団体



人と野生生物の関わりを考える会

〒078-8205 旭川市東旭川倉沼 旭川市旭山動物園内

代 表 榎田 和美

事務局長 榎井 大祐

電話番号 (0166)36-1104

FAX (0166)36-1406

E-mail bloode@3.dion.ne.jp